平成31年度　大学入試センター試験　本試験　数学ⅠA　講評

あすなろ学院　紫竹隆志

＜総評＞

昨年度同様の大問構成だった．昨年度とは反対に，必答問題がやや易しくなり，選択問題が取り組みにくくなった．第3問と第4問の難化が顕著ではあるが，筆頭問題は易しい上に計算量も少ないので，平均点は昨年度並の60点前後になると思われる．

全体として，大問中で問題を解決していく流れに乗れたかどうかが勝負を決めるものが多かった．数学的な思考力・読解力を身につけなければ太刀打ちできないだろう．単に『教科書の例題や章末問題が解ける』にとどまらない基礎事項の深い理解が必要である．網羅系参考書を読破し，十分な問題演習を積むことが重要である．

＜大問別講評＞

◆第1問〔1〕　数学Ⅰ　絶対値記号と根号を含む方程式　易

場合分けが与えられているため，悩むところが無い．解を求めるところでは3つの1次方程式を解いても良いし，グラフを描いてもよい．

◆第1問〔2〕　数学Ⅰ　条件の否定，必要・十分の判定　易

(1)は「または」の意味を理解できているかの確認．(2)はすべて見ただけでわかる．

◆第1問〔3〕　数学Ⅰ　2次関数の最大と平行移動　易

文字係数なので平方完成を丁寧に実行して，終了．本当にこれだけでいいのかとかえって不安になる．

◆第2問〔1〕　数学Ⅰ　図形の計量　易

点Dの位置を正しく把握できれば平易．∠BACが鈍角であることを調べさせられていることに注目すれば，作図に迷うことは無い．

◆第2問〔2〕　数学Ⅰ　データの分析　やや易～やや難

(1)と(2)は視力検査であって数学では無い．(3)は標準偏差とは何なのか，それを求めるにはなぜ偏差を「わざわざ2乗して」平均を取ってから根号を被せなければならないのか，といった部分を学んできたかが試される良問．

◆第3問　数学A　2つの袋から2色の球を取り出す確率　難

(3)は2次試験で頻出の「確率漸化式」をマスターしているとスムーズだが，一般の受験生には厳しいだろう．教科書内容は大きく逸脱していると言える．しかしマークセンス形式なので具体化して強引に ［ク］，［ケ］ を求めてしまうこともできる．

◆第4問　数学A　不定方程式の整数解，　やや難

また今年も互除法からの整数解が出題された．しかし(2)～(4)は非常によく練られた良問であり，(1)の不定方程式のとらえ方次第では誘導の意図に気付けないだろう．単に計算方法だけ記憶しても無意味であるという大学入試センター側の意思表示かもしれない．

◆第5問　数学A　三角形と円　やや易

なぜか正弦と余弦の値が与えられてのスタートだが，チェバの使いどころもわかりやすく，止まらずに最後の設問までたどり着ける．最後の設問は三角関数の加法定理(数Ⅱ)を用いればあっさり求まる．